

（2）特色ある教育活動

ア 生徒の主体性を引き出す授業の展開

主体的で対話的な活動を活性化させるために、また深い学びに直結できるように、生徒が自分で考え、生徒が主役となる時間を大切に授業を展開する。共に考え意見交換を行う協働学習を重視し、言語能力を高めていく。

イ ICT機器の活用と情報活用能力の推進

各教科の特質や学習過程を踏まえて、生徒が学習ツールの一つとしてICT機器を活用する機会を意図的に増やす。ICT機器を用いて積極的な意見交換を促し、オンライン授業においても生徒が効率よく学習でき、活発な意見交換ができる授業を進めていく。また、ICT機器の利用履歴等を活用し、信頼される適切な評価を行う。

ウ 英語科を核とした表現活動の推進

英語の授業において「話すこと」「聞くこと」に重点をおき、コミュニケーション能力を高め、英語でのプレゼンテーション等を実施することで、表現力及び自主性や自己肯定感の育成を図る。

エ 3年間を見通したSDGsの学習

2030年を決着点とするSDGsに向けて、「総合的な学習の時間」を核に、知る、広める、深める体験を重視し、一つ一つの目標に向けての解決策を協働で考えさせ、課題解決能力を身に付けさせる。また学期ごとに年に3回、ThinkingからDoingプログラムに繋げる取組も行う。3年間の見通しをもち、生徒主導で、生徒一人一人の思考及び行動につなげていけるようにする。

オ キャリア教育の推進

職場体験や地域人材、上級学校の先生等による体験授業等を通して、自分の生き方を考え自己理解を進める。基礎的・汎用的能力を身に付け、正しい職業観・勤労観を養わせる。

カ 教育相談を基点とした指導体制の維持

毎週一回実施する管理職、スクールカウンセラー、巡回指導教員、特別支援教育コーディネーター、各学年特別支援担当、養護教諭、特別支援教室専門員で組織する特別支援教育推進委員会において、情報共有を図りながら、具体的な支援の在り方を検討し、生徒の支援・指導に生かす。さらに、図書室に校内フリースクール（ステップ・タイム）としての役割をもたせ、配慮を必要とする生徒への支援体制を強化する。

キ 学校図書館の利用者拡大と校内フリースクールの充実

各教科等において図書館利用を活性化し、情報活用能力を育てる。図書委員会の主催で、第2学年・第3学年を中心に推薦図書紹介、図書館を使った調べる学習コンクール・ビブリオフォーラムへの参加等の自主的な活動を展開し、情操の育成と言語に関する能力の向上を図る。年に4回の読書月間を設け、読書の習慣の定着を図る。